

第7回 日本オープンイノベーション大賞 受賞取組・プロジェクトの概要について



内閣府
Cabinet Office

第7回 日本オープンイノベーション大賞 ミネート取組・プロジェクト一覧

賞名	取組・プロジェクト名称	応募機関
内閣総理大臣賞	産学官連携による日本初・世界最小の月面ロボットSORA-Qの開発	(国研)宇宙航空研究開発機構、(株)タカトミー、ソニーグループ(株)、(学)同志社大学
科学技術政策担当大臣賞	デジタル社会を支える安全な次世代無線LANローミング基盤の国際共同開発と事業創出・社会実装	(大)東北大学、(株)グローバルサイト、(株)Local24、(学)札幌学院大学
総務大臣賞	官民連携オープンイノベーションによる自動運転車向け合流支援情報提供システムの開発	国土交通省国土技術政策総合研究所
文部科学大臣賞	老舗粘土メーカーと大学との連携で誕生した革新的3次元細胞培養技術の開発	クニミネ工業(株)、(大)大阪大学
厚生労働大臣賞	AIを用いた胎児不整脈診断支援システムの開発 -胎児不整脈の診断を早く、正確に-	(独)国立循環器病研究センター、カナデビア(株)
農林水産大臣賞	食品の安全性確保と食品ロス削減に向けたMALDI-TOF MS微生物同定コンソーシアム活動	(学)九州産業大学、(一財)日本食品分析センター、(株)明治、アサヒ飲料(株)、(大)九州大学大学院
経済産業大臣賞	HVC KYOTO (Healthcare Venture Conference KYOTO)	京都リサーチパーク(株)、(独)日本貿易振興機構、京都府、京都市
国土交通大臣賞	奄美大島瀬戸内町におけるドローンを活用した平時有事対応住民向けサービス	日本航空(株)、瀬戸内町、奄美アイランドドローン(株)、(国研)防災科学技術研究所、(大)筑波大学計算科学研究センター
環境大臣賞	超低炭素型コンクリートを社会実装するための木質バイオマス燃焼灰の資源化技術の実証開発	(大)北九州市立大学、(大)京都大学、西松建設(株)、日本アイリッヒ(株)、響灘エネルギーパーク(合)
スポーツ庁長官賞	住友生命と PREVENT による『新結合型オープンイノベーション』の取組み	住友生命保険(相)
日本経済団体連合会会長賞	起業家を生み、事業を創り出す、進化する大企業発オープンイノベーション「docomo STARTUP」	(株)NTT ドコモ、(株)SUPERNOVA、(株)RePlayce
日本学術会議会長賞	医療現場の革新へ！ 医師の働き方改革を目指す医療大規模言語モデルの研究開発と実用化	日本電気(株)、(大)東北大学病院
選考委員会特別賞	県立高校発！地域を巻き込むオープンイノベーション いちご「ベリーツ」品質・等級判定 AI プロジェクト	(公財)ハイパーネットワーク社会研究所、大分県立大分東高等学校、(学)善広学園 IVY大分高度コンピュータ専門学校、FIGグループ(株)CAOS、ファラボ大分
	日本と地球低軌道を繋ぐエコシステム構築 -宇宙往還機 Dream Chaser の大分空港着陸に向けて-	日本航空(株)、兼松(株)、大分県、(株)三菱UFJ銀行、東京海上日動火災保険(株)、Sierra Space Corporation、(一社)Space Port Japan
	IoTデバイスを活用した高齢者の健康支援モデル構築に向けた取組み	アフラック生命保険(株)、アフラックデジタルサービス(株)、(大)福井大学、福井県若狭町

中山 素一(学校法人中村産業学園 九州産業大学 生命科学部 教授)、馬場 浩(一般財団法人 日本食品分析センター 彩都研究所 微生物研究課 調査役)、高橋 尚美(株式会社明治 研究本部 衛生微生物研究ユニット 専任課長)、青山 冬樹(アサヒ飲料株式会社 研究開発本部 技術研究所 品質技術グループ チーフプロデューサー)、宮本 敬久(国立大学法人 九州大学大学院 農学研究院 特任教授)

概要

九州産業大学を中核とし、国内の主要食品企業・分析機関等が参加して、MALDI-TOF MS質量スペクトルライブラリーの拡充による食品微生物の同定精度向上を目的としたコンソーシアムを2019年に設立(参加機関数:25機関)。食品の品質向上と食品ロス削減に向けて取り組む。

目的

HACCPの制度化により、科学的根拠に基づいた衛生管理が求められる中、安全で高品質な食品の製造・供給において、原料・半製品・製造環境の危害微生物の把握といった食品産業界における喫緊の共通課題を解決するため、MALDI-TOF MS微生物同定法の精度、同定率を高める。

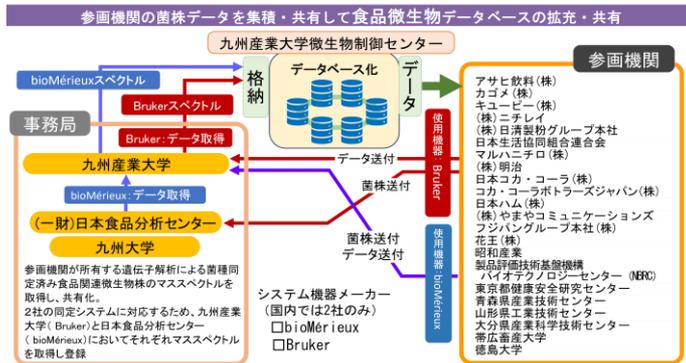
内容

九州産業大学を中核とし、(一財)日本食品分析センター・九州大学が事務局を形成して、参画機関の微生物研究者、微生物管理実務担当者間のネットワークを構築。参画機関の菌株データを集積・共有して食品微生物データベースの拡充・共有を行い、MALDI-TOF MS微生物同定における課題の共有や議論、勉強会等を通じた品質管理・品質保証人材の育成等を実施。

効果

微生物質量スペクトルデータ新規登録1997データ(2024年6月時点)、
危害微生物生育・制御情報数150菌種以上1367 データ、食中毒菌16菌種(2024年6月時点)等

MALDI-TOF MS微生物同定コンソーシアム活動の概要



コンソーシアムでの仕組み作りが、本技術の定着に向けて実効性の高い活動になると期待される。本方法が基盤技術として確立済みであり、完全性・迅速性に優れ、ランニングコストも安価である点で効果的であると評価できる。